「学研都市の長期的な戦略等を語る会合」　議事録（骨子）

◆登壇者の意見・提案

・九工大のマイクロ化総合技術センターを内外にアピールすべき
・学研都市としては「More-than-Moore」を目指すべき
・宇宙用デバイスやバイオデバイスなどの拠点化を進め、製造装置・評価装置の導入を進める。
・デバイス開発やリスキリングの観点で地元企業と連携する。
・ＦＡＩＳが企業と大学の連携を活発化させるハブになることが重要
・学研都市にあるいずれの大学も教育・研究だけでなく産学連携を活発に行っている。
・九工大では、企業との共同研究講座の設立や、文科省のプロジェクトを活用した共同研究の実施により、製品開発につながった事例等がある。
・多世代、ジェンダー、異文化の要素がうまくコネクションできるように、キャンパスの多様性の活性化が重要
・大学の研究は、幅広い萌芽的な研究にも目を向けていくべき（両利きの経営）
・学部生や学研都市で働く者がテーマを持って仕事ができるように促進することがイノベーションの種につながる。
・組織的に「暇」を生み出すことを通じて将来の新しい価値を見出すことが重要
・地域企業・行政・ＮＰＯと学生・研究者との多面的な交流が重要
・「ＰＡＲＫＳ」参加大学等と連携しながら新しい価値を生み出す。
・学研都市は、大学や企業が共同使用できる環境が整備されているため、単独の大学ではできない研究をやるべき
・起業には、教員自らが学生に示すことが重要であり、そのための人材・環境を整備するのが学研都市の役割
・「生命」にはロボットや農業や人体などに使える多様性がある。
・学研都市に優秀な人材を集めるための環境を整備することが重要
・産業を変えるような技術の発見を実用化に活かせるような大学教員が必要

・学研都市がスタートアップ企業に対するものづくりの相談拠点になればよい。
・学研都市には世の中を変えるような分野横断型研究の可能性が秘められているので、そのための環境整備が重要
・学研都市内の研究者のコミュニケーションの活発化、分野横断型ビックプロジェクトの獲得につながる仕組みづくりが重要
・学研都市の強みのＰＲや明るいイメージづくりなどの工夫が必要
・学研都市の個々の研究者の力を最大限発揮し、強みを伸ばしていくことが重要
・北九大は、環境・エネルギー問題に貢献できる研究を行うべき
・研究者コミュニティの形成や人材確保に努め、地域とも連携することが重要
・これからの２０年後に向けて新たな気持ちで進んでいくことが大事
・北九州は、ＡＩ、ロボティクス、神経科学などの研究を行うにはベストな場所
・学研都市が持つ潜在的能力を最大限に引き出し、「公民学が連携する先進実証都市　学研都市ひびきの」を実現すべき
・起業に関しては、失敗を怖れず何度もスピーディーに実証トライアルしていくことが重要
・旧態依然の教育のあり方を変えていければリスキリングも加速していく。
・組織的な「暇」を作るため、大学や地域で考えていくことが必要
・ＦＡＩＳは、理念に基づいて活動していくことが大事
・中小企業として学研都市に求めることは、中小企業との産学連携である。
・スタートアップができる体制づくりをＦＡＩＳがコーディネートしていくべき
・失敗を繰り返してもアジャイル（素早い対応）していくことが大事
・基礎研究と応用技術を活用したビジネスは切り分けて考えていくことが必要
・３０年前の技術が今をつくっていることが３０年後の学研都市のヒントになる。

◆参加者との質疑応答

【質問①】
・学研都市は、多様性を利用してその相乗効果により専門性を深くすべき
・学研都市にはバラエティに富んだ研究テーマがあるので、コアコンセプトを決めることが重要
・学術研究の先端を走るような学研都市にしてほしい。
≪回答①≫
・教員自体も連携して両利き経営をしていくしかない。
・多様性を利用して専門性を深めることも大事だが、広くポテンシャルを出し切ることも重要

【質問②】
・学研都市は、小学生、大学生、地域住民が連携できる条件がそろった地域だと思う。
≪回答②≫
・ひびきの小学校やひびきの地区まちづくり協議会との連携など、今後も公民学連携を通して地域貢献していきたい。
・地域連携や地域貢献は、大学というよりはＦＡＩＳの役割
・学研都市で、子どもたちがワクワクするような企画を増やしていきたい。
・ＦＡＩＳとしては、大学の協力を得ながら地域交流を行っていきたい。

【質問③】
・ＩＳＩＴは、学研都市との連携を模索していきたい。（感想）

【質問④】
・「More-than-Moore」は、北九州ではなじまないのではないか。
≪回答④≫
・「More-than-Moore」には様々なビジネスの形態があり、市場やデバイスの状況によって変わってくる。
・学研都市では教育や人材育成も大事なので、学生が実学を学べることが重要

【質問⑤】

・ロボットや自動運転などの実証実験に高齢者や子どもたちが参加できる取り組みがあればうれしい。

≪回答⑤≫

・将来的には学研都市で自動運転やロボットの実証実験を行うことが一つの目標

・最先端技術に接した先生が学生を指導し、学生が小学生に情報を提供できるような場に学研都市がなっていければよい。

◆まとめ

・小宮山先生が言われた「超大学」を実践する場が必要

・オンラインは教育にも応用が利くので、これからはリアルとオンラインを使い分けることが重要

・これからの学研都市に必要なことは研究の進化であり、ベテラン研究者のサポートを受けて若い研究者が進化していくことが大事

・大学や研究者は、様々な分野で連携することが必要だが、有能なパートナーをいかにして見つけるかが重要。そのための支援もＦＡＩＳの重要な役割

・新しいツールやシーズを世界に発信し、学研都市の次のステップを目指して研究者と一緒に頑張っていきたい。

・開かれた学研都市を目指して、ユニークさを活かし多様性を活用しながら、今後のあるべき姿を模索していきたい。